

米原歴史街道

米原市の歴史・文化財を歩く 155

「須川山砦跡」発掘調査速報

―織田信長に備えた城―

国の史跡指定を目指して

米原市と関ヶ原町の県境にある野瀬山の山上に長比城跡(柏原・長久寺)と須川山砦跡(須川)の二つの城跡があります。二つの城の国史跡指定を目指して、昨年度より検討を進め、今年七月から八月にかけて、須川山砦跡の発掘調査を実施しました。

元亀元年(一五七〇年)四月、浅井長政は同盟を結んでいた織田信長を見込みがないとしてあきらめ、朝倉義景と共に敦賀で信長を挟み撃ちにします。間一髪で危機を脱した信長は、岐阜で軍勢を整え、近江への進軍を開始します。織田信長の一代記「信長公記」の同年六月のくだりに「浅井備前越前衆を呼越し、たけくらべ、かりやす両所に要害を構え候」とあります。長政が越前衆(朝倉軍)の応援を受けて美濃との国境に苅安城(上平寺城/米原市弥高上平寺)と長比城を築いて、鎌刃城主(番場)の堀秀村と樋口直房を守りに入れます。しかし、竹中半兵衛の調略で、両城は戦うことなく開城し、信長は「たけくらべに一両日御逗留」して、近江入国を果たします。

須川山砦は小規模ですが、高い土塁(防御のための土の壁)を巡らせた、コンパクトな、発

達した構造です。土塁で曲輪(建物があった平坦地)全周を囲むのは、浅井氏領国に見られる特徴的な構造です。北側にある虎口(入口)は細い土塁を外に張り出して侵入した敵を囲い込む形となっており、その外にも土塁を設け、完全な遮断線としています。さらに補助の遮断線として、前面の斜面に三本の連続する竪堀と、その東に二本の竪堀を設けています。

須川山砦と長比城は近接していて、中間の尾根鞍部は兵隊の駐屯地だったと考えられます。このような立地と、長比城と構造が類似していることから、信長侵攻に備えて築かれた、一つの城塞群として評価することができ

発掘調査の成果

今回の調査は、建物の有無、城の年代、そして土塁の構造を調べるために行いました。

その結果、礎石や柱穴などの建物の痕跡は見つかりませんでした。地盤がしっかりしていることから、直接地面の上に軽量の建物が建てられていた可能性も考えられます。

土塁の調査では、曲輪を削平した際に出た「石を多く含む土」と、斜面を敵が登れない

よう崖状にした際に出た「石を含まない土」を交互に盛って築いていることが分かりました。また、お城の年代を特定する土器などの遺物は出土しませんでした。これは短期間の使用だったことと、須川山砦で戦うことなく廃城となったため、持ち出されたのではないかとみられます。

難なく国境を突破した信長は、六月二十八日、姉川を挟んで浅井・朝倉軍と戦います。

始め浅井・朝倉軍が優勢でしたが、次第に形勢が逆転し、浅井・朝倉軍は敗走します。この時、浅井長政の重臣遠藤喜右衛門直経は、味方の首を高く掲げて織田軍を惑わせながら信長の陣地に近づき、信長と刺し違えようとしたが、直前で織田方の竹中久作(竹中半兵衛の弟)に発見され、討ち取られます。須川の集落内には、この遠藤氏の館跡や代々の墓地があります。今回の調査では、遠藤氏との関わりをうかがえる発見はありませんでした。(歴史文化財保護課)



▲発掘調査の様子

消費生活相談コーナー

「お試し」のつもりが定期購入だった・・・

インターネットで「初回限定半額!」「10日間は解約を保証!」などと書かれた広告を見て、試しに1回だけ注文すると、翌月以降も商品が送られてくるようになってしまった。業者に電話をかけてもつながらない・・・



消費生活相談員より一言

コロナ自粛により、通信販売を利用する人が増えています。注文前に料金や購入回数、解約の条件を確認するほか、最初に見た広告は印刷するなどして残しておきましょう。



「おかしいな」と思ったら
一人で悩まず、
まずは消費生活相談窓口へ
ご相談ください。

市 消費生活相談窓口 (米原庁舎)

相談専用 ☎52-8088

(受 付) 平日9時30分~16時



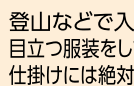
【米原警察署情報】 米原警察署 ☎52-0110

11月15日(日)~令和3年2月15日(月)は狩猟期間です!

※ニホンジカ、イノシシは11月1日(日)~令和3年3月15日(月)まで



狩猟をする人は・・・
銃器などの猟具の取り扱いルールを守り、細心の注意を払って狩猟に努めてください。



登山などで入山する人は・・・
目立つ服装をして、なるべく登山道を外れないように。
仕掛けには絶対に近づかないよう十分注意してください。



令和2年市内交通事故数(9月末時点)

件数 62件(-9件)、死者 1人(-1人)

傷者 79人(-15人)

※()内は前年比